

4-1 社会学

研究・教育活動の概要と特色

専門分野・社会学は、文学部発足当初から、全国的な社会学研究および教育の拠点として長い伝統をもっている。理論研究とくにテキストを詳細に読み解く学説研究に定評がある。この伝統をふまつつも、近年は現代社会の実証的な分析に力点をおき、理論研究と、おもに質的なデータに依拠する実証研究との統合をめざしている。長谷川教授は本研究科を中心とするグローバル COE の一翼を担っている。長谷川教授は温暖化問題のメディア報道と政策立案過程に関する、16ヶ国以上が参加する国際比較研究の日本チームのリーダーを務めるとともに、2014年に横浜市で開催される世界社会学会議の組織委員会委員長を務めるなど、国際共同研究や国際発信を重視している。正村教授の情報やコミュニケーションに関する研究、長谷川教授の環境社会学、社会運動に関する研究、永井准教授のハーバマスおよび地域福祉に関する研究、下夷准教授の家族や家族福祉に関する研究は、既存の研究動向に関する詳細な文献研究とそれぞれのフィールドでの実証研究をふまえた、独創性に富んだ高水準の理論的な研究として国内外の高い評価を得ている。

教育においては、とくに外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。課程博士の学位取得者の割合もきわめて高い。

研究室員は、行動科学・心理学・哲学などの隣接専門諸分野と連携して、国際的および全国的な研究交流をはかりながら自由闊達に切磋琢磨している。

組織

1 教員数（2011年9月末現在）

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：正村俊之、長谷川公一

准教授：永井彰、下夷美幸

助教：木村雅史

なお、2005年4月から2008年3月までは上田耕介が、そして2009年11月から2010年5月まで清水晋作が助教をつとめた。

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部研究 生	大学院博士前 期	大学院博士後 期	大学院研究生
51	2	4	8	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業者	大学院博士課程前 期修了者	大学院博士課程後期 修了者 (含満期退学者)
07	14	4	2
08	14	3	5
09	18	1	0
10	14	3	3
11	0	0	0
計	60	11	10

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2006～2010年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	2	0	2
08	5	0	5
09	0	0	0
10	4	0	0
11	0	0	0
計	11	0	7

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

高橋雅也、2007年度、『文化遺産をめぐる社会的実践と保存の思想 歴史への再帰性とローカリティ』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・嶋陸奥彦、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

前山総一郎、2007年度、『アメリカの直接立法と市民オルタナティブ』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・佐藤勝則、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

安達智史、2008年度、『社会的結束と文化的多様性の社会理論 リベラル・ナショナリズム論とイギリスの社会統合政策を中心として』

審査委員：教授・正村俊之（主査）、教授・吉原直樹、教授・長谷川公一、教授・佐藤嘉倫、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

木村雅史、2008年度、『E・ゴフマンの『フレーム分析』による多層的現実論の展開 相互行為秩序分析の基礎視角』

審査委員：教授・正村俊之（主査）、教授・吉原直樹、教授・長谷川公一、教授・木村邦博、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

田畑洋一、2008年度、『ドイツ最低生活保障制度研究 制度の仕組みと運用』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・佐藤勝則、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

土田久美子、2008年度、『日系アメリカ人リドレス運動の展開過程 集合的アイデンティティと制度形成』

審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・吉原直樹、教授・正村俊之、教授・佐藤嘉倫、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

森照代、2008年度、『コミュニティ・サポート・ネットワーク 青少年の地域活動によるつながりの再生/アクティブな市民社会の構築』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・仁平義明、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

大友康博、2010年度、『都市空間の再編をめぐる「脱場所化と再場所化」』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・鈴木岩弓、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

古平浩、2010年度、『地方鉄道経営と市民協働のあり方 社会資本のガバナンスと社会的企業の方向』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、
教授・沼崎一郎、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

笹島秀晃、2010年度、『「都市の美学」の条件——1970年代以降の都市をめぐる「生産」・「経験」・「権力」についての都市社会学的考察』

審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、
教授・佐藤嘉倫、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

本間照雄、2010年度、『社会関係の再構築としてのケア改革』

審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・吉原直樹、教授・正村俊之、
准教授・辻本昌弘、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	2	2	1	0	5
08	3	0	3	4	10
09	0	0	0	0	0
10	4	0	1	1	6
11	2	0	1	0	3
計	11	2	6	5	24

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	1	6	3	1	11
08	2	11	0	0	13
09	3	5	0	0	8
10	4	14	6	2	26
11	1	6	0	2	9
計	11	42	9	5	67

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 上田耕介 「ガバナンス論への懐疑」, 『社会学年報』, 37号, 2008.
- 牛渡亮 「スチュアート・ホールのサッチャリズム論—イギリス新自由主義における退行的近代化と権威主義的ポピュリズム」, 『社会学研究』89号, 2011.
- 高橋雅也 「近代三大築港ネットワークの展開 技術遺産の保存活動を事例に」, 『東北文化研究室紀要』49集, 2008.
- 安達智史 「イギリスの人種関係政策をめぐる論争とその盲点 ポスト多文化主義における社会的結束と文化的多様性について」, 『フォーラム現代社会学』, 7号, 2008.
- 安達智史 「ブリティッシュネスの解体と再想像—ポスト権限委譲におけるナショナルおよびサブナショナル・アイデンティティ」, 『社会学年報』39号, 2010.
- 田畑洋一 「ドイツ求職者基礎保障給付」 『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』26巻1号, 2007.
- 土田久美子 「留学と労働との接合と分離：国際的人材獲得競争と日本の大学」 『移動の制限と自由』(仮)2012年3月刊行予定, 東信堂.
- 木村雅史 「E・ゴフマンの相互行為分析の展開 『フレーム分析』における「括弧入れ」概念の意義」, 『社会学研究』81号, 2007.
- 木村雅史 「E・ゴフマンの「状況の定義」論 『フレーム分析』の検討を通して」, 『社会学研究』88号, 2010.
- 泉啓 「初期ハーバーマスのゲーレン批判 「近代の二元的把握」をめぐる」, 『社会学研究』, 84号, 2008.
- 笹島秀晃 「情報化と乖離する世界」, 吉原直樹編著『開かれた都市空間』法政大学出版社, 2008.
- 板倉有紀 「町会と防災活動」, 東北年社会学研究会編『地方都市におけるゆらぐ町内会とその動態 2008年青森市町内会・自治会調査結果報告書』, 2008.
- 板倉有紀 「災害への社会学的アプローチにおける<弱さ>の位置づけ 災害弱者問題の実践的課題に向けて」 『社会学研究』88号, 2010.
- 牛渡亮 「青年スチュアート・ホールの文化政治論—カルチュラル・スタディーズの原問題」, 『社会学研究』87号, 2010.
- 大友康博 「脱場所化と再場所化」, 吉原直樹編著『創られた都市空間 空間

から場所へ』法政大学出版局，2008．

中川恵 「地域支援型農業と持続可能な地域づくり 地域が支える『鳴子の米プロジェクト』から」『社会学研究』90号（2012年3月刊行予定）

（2）口頭発表

上田耕介 「政治的多元主義と公共善」，第55回東北社会学会大会，
2008年7月20日．

Shimizu, Shinsaku “Sociological Neoconservatism and Intellectual Networks in New York Intellectual Society”, 39th World Congress of International Institutes of Sociology, June 13, 2009.

高橋雅也 「民俗遺産の保存と伝承母体の流動性 秋田県旧鉾山地域の二祭礼から」，東北社会学会大会第54回大会，2007年7月22日．

Adachi, Satoshi “The Form of Korean Dreams: for adaptation to the world”, Cultural Typhoon 2008 in Sendai, June 28, 2008.

Adachi, Satoshi “On the Function of Britishness on the Social Integration in Britain”, Equal Opportunity International, Bosphorus University, Istanbul, 19 July 2009

Adachi, Satoshi "Being Muslim and Being British: Identity Management of Young Muslims," Asia Pacific Sociological Association, 2010

安達智史 「社会統合政策の比較社会学 国民国家およびグローバリゼーションのインパクト」，第60回関西社会学会大会，京都大学，2009年5月23日．

西山宝恵 「パーソンズの『理論』をめぐって F・ブリコーのパーソンズ解釈から」，東北社会学会第56回大会，2009年7月20日．

古平浩 「整備新幹線の建設をめぐる合意過程」，地域社会学会第33回大会，2007年5月．

古平浩 「経営システムにみるガバナンスの含意」，東北社会学会大会，2007年7月22日．

古平浩 「整備新幹線建設の合意過程にみるローカルガバナンスの視座」，日本地域政策学会第6回全国研究大会，2007年7月．

木村雅史 「ゴフマンの『状況の定義』論の再構成」，日本社会学会大会，2008年11月23日．

木村雅史 「ゴフマンの『人- 役割図式』論」，第49回日本社会学史学会，2009年6月27日．

- 木村雅史 「相互行為秩序分析の基礎視角 『フレーム分析』の検討を通して」、第 61 回関西社会学会大会, 2010 年 5 月 30 日
- Kimura, Tadafumi “Self-identity in Media Communication: in Consideration of Frame Analysis”, ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden. July 12, 2010.
- 泉啓 「『過ぎ去ろうとしない過去』への取り組み H・コール政権時代の歴史博物館、慰霊碑計画をめぐる論争について」, Cultural Typhoon 2008 in Sendai , 2008 年 6 月 28 日 .
- 泉啓 「危機とハーバース批判理論——前衛的介入者の二面性という視点」, 第 6 回日本社会学理論学会, 2011 年 9 月 4 日.
- 土田久美子「エスニック集団間の連携：日系アメリカ人コミュニティを事例として」名古屋大学・カリフォルニア大学サンディエゴ校共同シンポジウム, 2011年12月16日・17日.
- Tsuchida, Kumiko "Retelling the Past: Collective Memory in the Japanese American Redress Movement", at the Annual Meeting of American Sociological Association, August 3, 2008.
- Tsuchida, Kumiko, "Community Rebuilding and the Stories of the Internment: A Case Study of "Day of Remembrance" in L.A. Japanese American Community," at International Institute of Sociology 38th World Congress, at Yerevan State University, Armenia, June 12, 2009.
- Tsuchida, Kumiko, " Memories and Social Identities in Mobilization Process: Field study of the Japanese American Reparation Movement", The 8th Society for the Psychological Study of Social Issues Biennial Conference, June 25, 2010.
- 笹島秀晃 「空間概念の整理 D・ハーヴェイの空間分類」, 東北社会学会 第 54 回大会, 2007 年 7 月 22 日.
- 笹島秀晃 「近代的空間と身体 ルフェーブルとフーコーの比較検討」, Cultural Typhoon 2008 in Sendai , 2008 年 6 月 28 日 .
- Sasajima, Hideaki, 2010, "Changing Relationship between the Local Authority and Nonprofit Art Organizations in Creative City Yokohama after the Crisis", XVII ISA World Congress of Sociology (RC21.02 “Creative Cities” after the Fall of Finance"), Gothenburg, Sweden.
- 板倉有紀 「エスノスケープとミリュー ローカリティの諸相」, 第 55 回東北社会学会大会 , 2008 年 7 月 19 日 .

- 板倉有紀 「災害研究におけるヴァルネラビリティ概念の整理と射程 リスクへの視座をめぐって」第58回東北社会学会大会,2011年7月18日.
- 牛渡亮 「スチュアート・ホールのサッチャリズム論——新自由主義と上部構造の自律性」,第57回東北社会学会大会,2010年7月25日.
- 牛渡亮「スチュアート・ホールのモラル・パニック論—逸脱・メディア・「法と秩序」」,第58回東北社会学会,2011年7月17日.
- 大井慈郎 「インドネシアIndustrial Estatesにおける都市的機能の考察」,第57回東北社会学会大会,2010年7月25日.
- 大井慈郎 「アジアメガシティのインドネシアにおける展開——ジャカルタ拡大首都圏のIndustrial Estatesを事例に」,第83回日本社会学会大会,2010年11月6日.
- 戸邊俊哉 「インターネット空間における媒介の論理 なぜマスメディア批判が高まるのか」,第54回東北社会学会大会,2007年7月22日.
- 上野佑 「社会と空間をめぐる議論への批判的実在論の応用可能性」,第54回東北社会学会大会,2008年7月19日.
- ニ・ヌンガー・スアルティニ 「日本人女性の国際結婚における新たな展開 バリ島における日本人女性とインドネシア人男性との事例から」,第57回東北社会学会大会,2010年7月20日.
- ニ・ヌンガー・スアルティニ 「国際離婚に関わる慣習の問題——インドネシア・バリにおける日本人女性のライフストーリーから」,第58回東北社会学会大会,2011年7月18日.
- 小杉亮子 「『新しい社会運動』とアイデンティティ」,第56回東北社会学会大会,2009年7月20日.
- 小杉亮子 「学生運動の形成過程と要因——Free Speech Movement の分析をもとに——」,第57回東北社会学会大会,2010年7月25日.
- Kosugi, Ryoko, 2011, "Comparative Study of Student Movements in Japan and the U. S. in the Sixties," the 106th Annual Meeting of the American Sociological Association (Hope and Despair as Socio-Political Phenomena Session), Caesar Palace Hotel, Las Vegas.
- 中川恵 「地域サポータの媒介機能と鳴子の米プロジェクト」,第56回東北社会学会大会,2009年7月20日.
- 中川恵 「Community Supported Agriculture (CSA) と提携(Teikei)」,第57回東北社会学会大会,2010年7月25日.

中川恵「地域支援型農業と持続可能な地域づくり」環境社会学会,2011年6月4日.

中川恵「日本版 CSA の類型と展開可能性」第58回東北社会学会,2011年7月18日.

中川恵「地域支援型農業の展開 宮城県大崎市・鳴子の米プロジェクト」第84回日本社会学会,2011年9月17日.

Nakagawa,Megumi,2011,“Community Supported Agriculture (CSA) from environmental sociological perspective a case study of “Naruko no Kome project (a rice farming project in Naruko hot spring areas),”IFOAM-OWC プレカンファレンス 2011年9月26日.

保良康平「日本における情報概念の歴史的変遷と社会構築」,第56回東北社会学会大会,2009年7月20日.

安田理人「発達障害児・者の保護者による社会運動」,第56回東北社会学会大会,2009年7月20日.

安田理人「『障害の社会モデル』の諸類型」,第57回東北社会学会大会,2010年7月25日.

3 大学院生・学部生の受賞状況

今野麻紀子 平成21年度東北大学総長賞(卒業論文『日本映画でみる母親像』) 2010年3月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2007年度 DC採用2名、PD採用2名

2008年度 DC採用1名

2009年度 0名

2010年度 PD採用1名、DC採用1名

2011年度 0名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

09年度 大学院 計1名 ニューヨーク市立大学大学院(アメリカ合衆国)

10年度 学部 計2名 カリフォルニア大学サンタクルーズ校(アメリカ合衆国)

11年度 学部 計1名 カリフォルニア大学デイビス校(アメリカ合衆国)
 大学院 計1名 ハーバード大学、イェンチン研究所(アメリカ合衆国)

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
07	0	0	0
08	1	0	1
09	3	0	3
10	3	1	4
11	2	2	4
計	9	3	12

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	1	1
08	0	1	1
09	0	0	0
10	0	0	0
11	1	0	1
計	1	2	3

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

計6名

07年度(D修了) 青木聡子 名古屋大学大学院環境学研究科 講師
 07年度(D修了) 菱山宏輔 東北大学国際高等融合領域研究所 助教
 09年度(D修了) 伊藤嘉高 山形大学大学院医学研究科 助教
 09年度(D修了) 高橋雅也 大分県立芸術文化短期大学情報コミュニケーション学科 講師
 09年度(D修了) 田代志門 東京大学大学院医学系研究科 GCOE プログラム 特任助教

- 10年度(D 修了) 菱山宏輔 鹿児島大学法文学部 准教授
10年度(D 修了) 土田久美子 東北大学国際高等融合領域研究所 助教
10年度(D 修了) 清水晋作 盛岡大学文学部 准教授
10年度(D 修了) 本郷正武 和歌山県立医科大学医学部 専任講師
11年度(D 修了) 齊藤綾美 八戸大学ビジネス学部 専任講師

7- 2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 1 名、報道機関 5 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

1 名(2010 年度)

10 刊行物

- 『2006 年度社会調査実習 A 班報告書 フリースクールの現在、そして未来 仙台を事例にして』2007 年 3 月 .
『2006 年度社会調査実習 B 班報告書 防犯都市域社会 住民防犯活動へのまなざし』2007 年 3 月 .
『2006 年度社会調査実習 C 班報告書 女性のライフサイクルと多様な「キャリア」形成』2007 年 3 月 .
『2008 年度社会調査実習 A 班報告書 エコブーム エコバッグと現代社会、仙台市を事例に』2009 年 2 月 .
『2008 年度社会調査実習 B 班報告書 男女共同参画と育児と就業 現代社会にみる男性の育児参加』2009 年 2 月 .
『2008 年度社会調査実習 C 班報告書 仙台・宮城 DC を通して考える観光の変化 宮城県南三陸町の事例』2009 年 2 月 .
『2009 年度社会調査実習報告書 生活実態調査からみる蔵王町の現状と課題——維持可能なコミュニティをめざして』2010 年 2 月 .

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007 年度 東北社会学会事務局
東北社会学研究会事務局

- 東北社会学研究会大会（10月6日）
- 2008年度 東北社会学会事務局
東北社会学研究会事務局
東北社会学研究会大会（2008年5月17日）
カルチュラル・タイフーン 2008 in 仙台（2008年6月27-29日）
日本社会学会大会（2008年11月23-24日）
- 2009年度 東北社会学会事務局
東北社会学研究会事務局
東北社会学研究会大会（2009年10月24日）
- 2010年度 東北社会学会事務局
東北社会学研究会事務局
東北社会学研究会大会（2010年10月16日）
- 2011年度 東北社会学会事務局
東北社会学研究会事務局
東北社会学研究会大会（2011年10月15日）

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

- 2008年度 社会学特別講演（2008年10月12日）
2010年度 社会学特別講演（2010年11月27日）

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

第81回日本社会学会大会が2008年11月に東北大学を開催校として東北大学で開催されたが、本専攻分野の教員・大学院生は、行動科学研究室、情報学研究科や教育学研究科の関係スタッフなどとともに、大会の成功に向けて中心的な役割を担ったし、好評を博した。

行動科学研究室などとともに本専攻分野は、21世紀COEプログラムに引き続き、吉原教授・長谷川教授が事業推進担当者として、正村教授が研究協力者として、本研究科を中心とするグローバルCOEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」の一翼を担っており、多数の大学院生がGCOE大学院生、GCOEフェローとして、同プログラムを支えている。2003年度に21世紀COEプログラムがスタートして以降、とくに行動科学・心理学・文化人類学・宗教学・哲学・教育社会学などの隣接専門諸分野との連携を強めている。GCOEプログラム以外でも、教員

や院生の研究関心に応じて、建築学・地理学・環境学・医学・薬学・情報学など、総合大学としての強みをいかして、文学研究科内にとどまらない全学的な研究交流を活発に行っている。本専修分野の教員はいずれもそれぞれの専門分野で全国学会・全国的な研究組織のリーダー的存在であり、各種の審査委員・評価委員などを務めている。大学院生も全国学会をつうじた交流はもちろんのこと、薬害エイズ問題について全国的な調査研究のネットワークに参加するなど、研究テーマに応じて、主体的に全国の研究者と研究交流を行っている。

また 21 世紀 COE プログラムの開始と前後して、吉原教授およびその指導院生が東南アジア、インドネシアの地域住民組織に焦点をあてて、長谷川教授およびその指導院生が米国やオランダ・ドイツの研究者と環境問題や市民活動に関して、現地でフィールドワークを行うなど、国際的な共同研究や海外での学術調査もさかんにっており、英語での著作の刊行や英語での研究報告も積極的に行っている。正村教授の著書は、日本社会学の名著シリーズの一冊として中国語訳が刊行されている。教員・大学院生による国際的なネットワークづくりも活発である。学部生・大学院生も積極的に海外に留学している。留学経験などをもとに、国連職員などの国際公務員をめざす院生や卒業生も増えている。長谷川教授は、日本社会学会世界社会学会議組織委員会副委員長として、2014 年に横浜開催が決定した国際社会学会の世界社会学会議の招致に尽力し、大会の成功に向けて、内外で奔走している。このように、日本の社会学界の積年の懸案である国際化・国際発信という点では、日本の社会学研究室の中でトップ水準にあるといえる。

文献研究においても、2011 年 4 月に学位を得た博士論文に結実した永井准教授のハーバマス研究に代表されるような、本研究室のすぐれた伝統でもある緻密なテキストクリティークに依拠して内在的な理解をめざす方法に加えて、2005 年 3 月末に定年で退職した高城和義教授の指導のもとで、未刊行文献を積極的に渉猟し、研究者の全体像をその生涯にわたって描き出そうという野心的な研究も展開されている。理論研究という面では、正村教授も、独自の情報概念を基にして現代のグローバル社会を解明する研究を行っている。さらに、高城和義教授の後任として 2007 年度に着任された下夷准教授は、日本の家族とその歴史を幅広い視点から捉え直す実証的研究を行っており、下夷准教授の着任によって社会学研究室の体制は一層充実した。下夷准教授は 2009 年度の東北大学男女共同参画奨励賞（沢柳賞）を受賞している。

なお吉原教授は、大妻女子大学に転出し、定年 1 年前に 2011 年 3 月末で勸奨退職した。教育・研究上の必要上からも、准教授以上の教員 5 人体制に早期に復帰す

ることが求められている。

本研究室はおもに東北地方を対象とする農村調査でも従来多くの成果をあげてきたが、吉原教授が東北都市学会を組織し、中心となって『東北都市事典』を編纂したほか、永井准教授も高齢者ケアに焦点をあて、東北地方や中部地方、沖縄県などをフィールドとして地域福祉に関する研究を行っている。長谷川教授は青森県六ヶ所村のむつ小川原開発・核燃料サイクル施設問題の研究を続けるとともに、北海道・東北地方の市民出資による「市民風車」プロジェクトの国際比較研究を行っている。

本研究室では吉原教授が『災害の社会学』を編集するなど、社会学的な災害研究の蓄積を有してきたが、東日本大震災の発生に対応して、正村教授は社会情報学会や日本社会学会、東北社会学会における震災関連プロジェクトの中心リーダーの1人として、学会大会での特別セッションの企画・司会などとして活躍し、長谷川教授も、南三陸町の復興過程について事例研究を開始するとともに、震災問題および原発震災に関する論文・著作をつうじて社会的発言を行い、また韓国・台湾でこの問題に関して招待講演を行っている。院生の板倉は、東日本大震災をふまえた災害リスクと地域社会に関する博士論文を執筆中であり、2011年度の卒論においても約4割は、東日本大震災からの復興や防災・減災、震災体験の記録化などを扱っている。

本研究室の教員は専門分野に関連する政府・地方公共団体関係機関等の委員等を数多く務めるほか、特定非営利法人の役員などとしても地域社会に貢献している。

教育においては、とくに英語・ドイツ語の外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。社会学実習は、とくに聴取などの質的調査に重点をおいているが、調査の企画から実査、報告書の刊行まで受講生自身の主体性を重視している。社会学実習の調査報告書は、教員・院生の指導・助言のもとで受講生自身が執筆し、ほぼ毎年刊行している。

課程博士の学位取得者は通算で22人、この5年間では11人にのぼっている。とくに小松丈晃が2000年度に提出した学位論文は『リスク論のルーマン』（勁草書房）として2003年7月に刊行され、帯谷博明が2002年度に提出した学位論文『河川政策の変遷と環境運動の展開－対立から協働・再生への展望』も『ダム建設をめぐる環境運動と地域再生－対立と協働のダイナミズム』（昭和堂）として2004年10月に刊行され、本郷正武が2003年度に提出した学位論文『「良心的支持者」概念の理論的展開－HIV/AIDSをめぐる集合行為のフレーミング分析』も『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』（ミネルヴァ書房）として2007年2月28

日に刊行され、いずれも好評を博した。とりわけ 2002 年 3 月に刊行された李妍焱の『ボランティア活動の成立と展開 日本と中国におけるボランティア・セクターの論理と可能性』(ミネルヴァ書房)は、第 1 回日本 NPO 学会研究奨励賞・第 2 回生協総研「研究賞」を受賞した。齋藤綾美の課程博士論文『インドネシアの地域保健活動の成立と展開 地域社会から見た「開発の時代」』も、2007 年度の東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)を受賞している。

このように本研究室の課程博士論文は質の面でも全国的に高い評価を得ており、学位取得者のほとんどは、公募で大学などの研究職についている。青木聡子が 2006 年 10 月 1 日付けで名古屋大学の講師として採用されたほか、奈良女子大学のような有力大学、大妻女子大学や駒澤大学、立正大学などのような首都圏の私立大学、東北学院大学などで公募によりポストを得ている。大学院生の出身大学は、京都大学・一橋大学・大阪大学・筑波大学・広島大学・金沢大学・静岡大学・東京学芸大学・信州大学・新潟大学・早稲田大学・中央大学・法政大学・立命館大学(順不同)など全国にわたっている。

近年は、法科大学院の新設などにもともなって、本専修分野内で学部から大学院にすすむ「内部進学者」が減っており、内部進学者の確保が大きな課題となっている。仙台にあるという立地条件にも規定され、本専修分野の研究および大学院教育に関する専門家レベルでの評価はきわめて高いが、その割には大学院受験者が増えないという悩みを抱えている。

課程博士の学位取得者は着実に増えており、その質も全国的にみて高い水準にあるということは、本専修分野出身の中堅の研究者にもよい刺激を与えており、論文博士の学位をもとめて、長年の研究成果をまとめ、本研究室に学位論文を提出する者も増えている。本研究室に提出された学位論文の中には、永野由紀子『現代農村における「家」と女性』(刀水書房,2005 年)のように、学会賞を受賞した作品もある。

東北社会学研究会の事務局は本専攻分野の研究室にある。ともに全国学会である東北社会学会・東北社会学研究会の運営を長年にわたって実質的に支えてきたのは、本専攻分野の教員・助手・助教・大学院生であるといつて過言ではない。近年は、『社会学研究』が半年刊になるなど、学術雑誌の発行も順調にすすんでいる。

本専攻分野は、卒業生の主な就職先、卒論・修論・博論の表題一覧、所属院生の研究テーマや大学院志望者へのアドバイスを含み、独自のウェブサイトをもっており、内容の充実度は高い。吉原・正村・長谷川教授も研究活動などを紹介するウェブサイトを設置・運営しており、研究内容などの発信につとめている。

教員の研究活動（2007～2011年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

吉原直樹 「ゆらくバンジャール」, 『東北大学文学研究科研究年報』第56号, pp.155-184, 2007.

吉原直樹 「戦時体制の崩壊と教職追放」, 東北大学百年史委員会『東北大学百年史』第1巻・通史1, 東北大学出版会, pp. 519-550, 2007.

吉原直樹 「戦間期仙台の余暇空間 一覚書」, 東北都市学会『仙台都市研究』6, pp. 11-21, 2008.

吉原直樹 「ハーヴェイをどう読むか 覚書」, 『情況』08年7月号, pp. 103-114, 2008.

吉原直樹 「ローカル・ガバナンスと『開かれた都市空間』」, 東北社会学会『社会学年報』37, pp.15-30. 2008.

吉原直樹 「戦間期仙台の余暇空間 覚書」東北都市学会『仙台都市研究』6, pp.11-21. 2008.

吉原直樹 「東北6県全市町村の防災研修二ーズ『防災・被災対応のソフトウェア』の」(共著), 東北都市学会『仙台都市研究』6, pp.1-9. 2008.

吉原直樹 「新しい都市社会学へ D. ハーヴェイ『都市と社会的不平等』」, 井上俊・伊藤公雄編『都市的世界』(社会学ベーシック4), 世界思想社, pp.229-238. 2008.

吉原直樹 「アジア・メガシティとポスト・グローバルシティの位相」西川長夫・高橋秀需編『グローバルゼーションと植民地主義』人文書院, pp.215-233. 2009.

吉原直樹 「地縁再考 創発的な場所理解に向けて」近畿大学日本文化研究所編『日本文化の美と醜』風媒社, pp.256-273, 2009.

吉原直樹 「町内会における諸問題の解決法に関する一考察」(共著), 『ヘスティアとクリオ』8号, pp. 19-51, 2009.

吉原直樹 「バリにおける日本人社会と多重化する情報環境」(共著), 『東北大学文学研究科研究年報』第59号, pp. 84-126, 2010.

Naoki YOSHIHARA "Where has the people's safety in the borderless society gone?," *Procedia-Social and Behavioral Sciences*, 2, pp.24-27, 2010.

- 吉原直樹 「コミュニティへの多角的な問いかけ」,『東北都市学会研究年報』
10号, pp.39-56,2010.
- 吉原直樹 「移動研究のフロンティア」, M.フェザーストンほか編著, 近森高
明訳『自動車と移動の社会学』法政大学出版局, 2010, pp.437-448.
- 正村俊之 「コミュニケーションと情報空間の相互構成 情報的世界観か
らみた人間と社会(上)」,『思想』2月号, pp.36-56,2007.
- 正村俊之 「コミュニケーションと情報空間の相互構成 情報的世界観か
らみた人間と社会(下)」,『思想』3月号, pp.107-130,2007.
- 正村俊之 「グローバル化と公共圏 民主主義のゆくえ」, 友枝敏雄・竹沢
尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵『社会学のエッセンス 世の中のしく
みを見ぬく』有斐閣, pp.243-260,2007.
- 正村俊之 「10 自己組織性 吉田民人『情報と自己組織性の理論』, 井上俊・
伊藤公雄編『社会学ベーシックス2 社会の構造と変動』 pp.95-104, 世界
思想社,2008.
- 正村俊之 「現代社会論としての機能分化論」,『社会学研究』83号, pp.1-4,2008.
- 正村俊之 「ブログ・ジャーナリズムが生み出す新民主主義」,『月刊 公明』
11月号,2008.
- 正村俊之 「数理的研究と非数理的研究の相補性」,『社会学年報』38号,
pp.43-47,2009
- 正村俊之 「ジンメルと近代的思想圏 原理論・方法論における第三の立
場」,『社会学研究』87号, pp.30-68,2010
- 正村俊之 「ジンメル理論の革新性 デュルケーム、ウェーバーとの関連
において」,2010
- 正村俊之 「グローバル資本主義への視座」,『学術の動向』第16巻第4号
pp.36-41,2011
- 正村俊之 「『社会と個人』の根源にあるもの」『社会学史研究』第33号,
pp.59-71,2011
- 正村俊之 「現代社会における境界変容 グローバル化と情報化の構造的連
関」『思想』11月号に掲載予定,2011
- 正村俊之 「ポスト産業資本主義の論理 新自由主義は何をもたらしたの
か」『フォーラム現代社会学』11号,近刊
- 正村俊之 「パネル討論『大震災と向き合う』」(西田豊明・小方孝・野田五十
樹との討論記録)『人工知能学会』第26巻5号,近刊

- 正村俊之 「コミュニケーション論の系譜と課題」『身体・メディア・情報空間 コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房
2012年3月に刊行予定
- 正村俊之 「金融恐慌にみるコミュニケーションの成立機制 神・貨幣・情報空間」『身体・メディア・情報空間 コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房 2012年3月に刊行予定
- 長谷川公一 「社会調査と倫理 日本社会学会の対応と今後の課題」『先端社会研究』6号, pp.189-211, 2007.
- Koichi HASEGAWA "The Effects of 'Social Expectation' on the Development of Civil Society in Japan", with Chika Shinohara and Jeffrey Broadbent, *Journal of Civil Society Vol. 3, No. 2*, pp.179-203, 2007.
- 長谷川公一 「『原子カルネサンス』とヨーロッパ」『科学』77巻11号, pp.38-41, 2007.
- 長谷川公一 「社会学批判者としての宇井純 社会学的公害研究の原点」『環境社会学研究』13号, pp.214-223, 2007.
- 長谷川公一 「社会秩序と権力」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣, pp.75-102, 2007.
- 長谷川公一 「組織とネットワーク」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣, pp.103-136, 2007.
- 長谷川公一 「環境と技術」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣, pp.241-275, 2007.
- 長谷川公一 「社会運動と社会構想」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』有斐閣, pp.511-542, 2007.
- Koichi HASEGAWA, "Globalization, Minorities and Civil Society," Hasegawa Koichi and Yoshihara Naoki (eds.), *Globalization, Minorities and Civil Society: Perspectives From Asian and Western Cities*, Trans Pacific Press, pp.3-20, 2008.
- 長谷川公一 「調査倫理と住民基本台帳閲覧問題」『社会と調査』創刊号, pp.23-28, 2008.
- 長谷川公一 「自然再生プロジェクトと地域づくり 環境社会学の視点から」『環境と公害』38巻2号, pp.23-29, 2008.
- 長谷川公一 「ガバナンス論の前提と射程」『社会学年報』37号, pp.1-4, 2008.
- 長谷川公一 「社会変動と社会学」金子勇・長谷川公一編『講座社会変動1

- 社会変動と社会学』ミネルヴァ書房, pp.1-19, 2008 .
- 長谷川公一 「社会変動研究の理論的課題」金子勇・長谷川公一編『講座社会変動1 社会変動と社会学』ミネルヴァ書房, pp.23-49, 2008.
- 長谷川公一『『気候の危機』とローカル環境ガバナンス』伊藤達雄・戒能通厚編『アジアの経済発展と環境問題 社会科学からの展望』明石書店, pp.112-120, 2009.
- 長谷川公一「温暖化対策とエネルギー政策」鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房, pp.180-183, 2009.
- 長谷川公一「リスク社会化と市民社会」『社会学研究』85号, pp. 1-19, 2009 .
- 長谷川公一「低炭素社会に向けて コペンハーゲン会議の現場から」『環境と公害』39-3, pp.14-20, 2010.
- Koichi HASEGAWA, “Collaborative Environmentalism in Japan” in H. Vinken et al. eds *Civic Engagement In Contemporary Japan: Established And Emerging Repertoires*, Springer, pp.84-100, 2010.
- Koichi HASEGAWA, “Tamito Yoshida: An Unknown Master of Japanese Sociology,” *International Journal of Japanese Sociology* 19, pp.126-132, 2010.
- 長谷川公一「もう一つのチェルノブイリ」を待たねばならなかったのか」『朝日ジャーナル 原発と人間』（2011年6月5日号）pp.66-69, 2011.
- 長谷川公一「廃墟からの新生」内橋克人編『大震災のなかで』岩波書店, pp.254-271, 2011.
- 長谷川公一「東日本大震災と復興をめぐる諸課題 宮城県を中心に」『環境と公害』41-1, pp.9-14, 2011.
- 長谷川公一「東日本復興への希望」『arc』15号, pp.38-45, 2011.
- Koichi HASEGAWA, “Cultivating Social Diversity and the Role of NGOs/NPOs,” Kunihiro KIMURA ed., *Minorities and Diversity*, Melbourne: Trans Pacific Press, pp.113-135, 2011.
- Koichi HASEGAWA, “A Comparative Study of Social Movements for a Post-Nuclear Energy Era in Japan and the U.S.,” in J. Broadbent and V. Brockman (ed.), *East Asian Social Movements: Power, Protest and Change in a Dynamic Region*, New York: Springer, pp. 63-79, 2011.
- 長谷川公一「脱原子力社会へ エネルギー供給と四番目のE」『現代の理論』29号, 印刷中, 2011.
- 長谷川公一「東日本大震災・福島原発震災以後の環境社会学に向けて」『環境

- 社会学研究』17号,印刷中,2011.
- 長谷川公一「環境ガバナンスと市民社会」植田和弘編『持続可能な発展と環境ガバナンス』ミネルヴァ書房,印刷中,2011.
- 永井彰「高齢者の地域ケアをめぐる今日の問題状況再考」『東北大学文学研究科研究年報』56号,pp.41-59,2007.
- 永井彰「自治体合併にともなう地域経営の変容 広島県三次市君田町の事例」『東北文化研究室紀要』49集,pp.1-17,2008.
- 永井彰「災害弱者の支援と自立」吉原直樹編『災害の社会学』東信堂,pp.139-167,2008.
- 永井彰「沖縄の島嶼部における地域ケア・システム構築の現状と課題」『東北文化研究室紀要』51集,pp.1-15,2010.
- 永井彰「ハーバースの社会理論 視座と方法」東北大学大学院文学研究科(博士学位論文),2011.
- 永井彰「福祉社会学からみた小規模・高齢化集落研究の課題」『福祉社会学研究』8号,pp.56-60,2011.
- 下夷美幸「母子世帯政策の日本的特徴 アメリカ及びイギリスとの比較を通じて」,駒村康平編『次世代のための家族政策の確立に向けて』,社会経済生産性本部,pp.117-143,2007.
- 下夷美幸「家族の社会的意義とその評価 育児・介護の担い手としての家族」,本澤巳代子・ベルント・フォン・マイデル編『家族のための総合政策 日独国際比較の視点から』,信山社,pp.217-238,2007.
- 下夷美幸「ジェンダー・エンパワーメント」,武川正吾・三重野卓編『公共政策の社会学 社会的現実との格闘』,東信堂,pp.213-240,2007.
- 下夷美幸「家族構造の変化とこれからの社会政策の方向」,『世界の労働』58巻1号,日本ILO協会,pp.36-40,2008.
- 下夷美幸「アメリカにおける養育費政策の現状とその作用」,『大原社会問題研究所雑誌』594号,法政大学大原社会問題研究所,pp.19-35,2008.
- 下夷美幸「家族の現代的変容と社会福祉」,『社会福祉研究』102号,鉄道弘済会社会福祉部,pp.60-66,2008.
- 下夷美幸「(博士学位論文)離婚後の養育費政策に関する研究- 国家による家族介入の必要性和危険性」お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科,2009.
- 下夷美幸「男女共同参画社会とジェンダー」,三本松正之・杉岡直人・武川

- 正吾編『社会理論と社会システム』ミネルヴァ書房，pp.77-92，2009
- 下夷美幸 「「リスク社会」下の現代家族 その可能性と社会的条件」,『社会学研究』85号,東北社会学研究会，pp.21-43，2009．
- 下夷美幸 「介護支援政策の規範論と制度論 介護保険制度を素材として」,『家族関係学』28号,日本家政学会家族関係学部会，pp.33-41，2009.
- 下夷美幸 「養育費問題からみた日本の家族政策 国際比較の視点から」,『比較家族史研究』25号,比較家族史学会, pp.81-104, 2010．
- Miyuki SHIMOEBISU, “Single Mothers and Child Support Policies in Japan,”
Kunihiro Kimura (ed.), *Minorities and Diversity*, Trans Pacific Press,
pp.15-30, 2011.
- 下夷美幸 「家庭生活を取り巻く社会的状況」新・保育士養成講座編纂委員会編『家庭支援論』全国社会福祉協議会，pp.29-51，2011.
- 下夷美幸 「ジェンダー・エクイティと福祉国家」,武川正吾編『公共性の福祉社会学』東京大学出版会，印刷中.
- 清水晋作 「新保守主義とアメリカ社会学——D．ベル、P．L．バーガーの現代社会論に着目して」『社会学史研究』30号，pp. 171-185，2008．

1-2 著書・編著

- 吉原直樹 『開いて守る：安全・安心のコミュニティづくりのために』,岩波ブックレット，2007．
- 吉原直樹 『グローバル・ツーリズムの進展と地域コミュニティの変容』(編著), 御茶の水書房，2008．
- Naoki YOSHIHARA, *Globalization, Minorities and Civil Society*,(edited with Koichi Hasegawa), Trans Pacific Press,2008.
- 吉原直樹 『モビリティと場所 21世紀都市空間の転回』,東京大学出版会，2008年．
- 吉原直樹 『世界の都市社会計画』(アーバン・ソーシャル・プランニングを考える1，藤田弘夫・橋本和孝と共編著), 東信堂，2008年．
- 吉原直樹 『防災の社会学』(シリーズ防災を考える1，編著), 東信堂，2008年．
- 吉原直樹 『変わるバリ 変わらないバリ』(倉沢愛子と共編著), 勉誠出版，2009年．
- 吉原直樹 『都市社会計画の思想と展開』(アーバン・ソーシャル・プランニ

- ングを考える 2 , 藤田弘夫・橋本和孝と共編著), 東信堂, 2009 年
 Naoki YOSHIHARA *Fluidity of Place*, Trans Pacific Press, 2010, pp.233.
- 吉原直樹 『コミュニティ・スタディーズ』作品社, 近刊
 吉原直樹 『モビリティと空間の物語』(編著), 東信堂, 近刊
 正村俊之 『社会学のエッセンス(新版)』(共編著), 有斐閣, 2007.
 正村俊之 『グローバル社会と情報的世界観 現代社会の構造変容』東京
 大学出版会, 2008.
 正村俊之 『グローバリゼーション 現代はいかなる時代なのか』, 有斐
 閣, 224p, 2009.
 正村俊之 『生と死への問い』(編) 東北大学出版会, 2011 年
 正村俊之 『身体・メディア・情報空間 コミュニケーション論の新たな展開
 をめざして』(編著)勁草書房 2012 年 3 月刊行予定
 長谷川公一 『社会学』(共著) 有斐閣, 2007 .
 Koichi HASEGAWA, *Globalization, Minorities and Civil Society: Perspectives
 from Asian and Western Cities*, (共編著) Melbourne, Trans Pacific
 Press, 244p, 2008.
 長谷川公一 『講座社会変動 1 社会変動と社会学』(共編著) ミネルヴァ書
 房, 2008.
 長谷川公一 『脱原子力社会の選択 増補版 新エネルギー革命の時代』
 新曜社, 2011.
 長谷川公一 『脱原子力社会へ 電力をグリーン化する』岩波書店, 2011.
 下夷美幸 『養育費政策にみる国家と家族: 母子世帯の社会学』, 勁草書房,
 2008.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 書評

- 吉原直樹 「徳川直人著『G・H・ミードの社会理論』東北大学出版会」, 『宙』
 20, 2007 .
 吉原直樹 「サスキア・サッセン著『グローバル・シティ』」, 『週刊読書人』
 2775号(2009年2月13日号), 2009 .
 吉原直樹 「J・トービ著『パスポートの発明』」, 『図書新聞』2917号(2009
 年5月9日号), 2009 .
 吉原直樹 「自著紹介・吉原直樹編著『グローバル・ツーリズムの進展と地

- 域コミュニティの変容』, 『地域社会学会年報』第21集, 2009年.
- 正村俊之 「石井和平『社会情報学 情報技術と社会の共変』, 『社会学評論』, 2009.
- 長谷川公一 「書評・庄司興吉『社会学の射程 ポストコロニアルな地球市民の社会学へ』, 『社会学評論』239 (60-3), pp.453-454, 2009.
- 下夷美幸 「書評リプライ『養育費政策にみる国家と家族：母子世帯の社会学』, 『社会福祉学』50巻1号, 日本社会福祉学会, p.206-p.208, 2009.
- 下夷美幸 「書評・神原文子『子づれシングル ひとり親家族の自立と社会的支援』, 『福祉社会学研究』8号, 福祉社会学会, p.145-p.149, 2011.

(3)解説

- 吉原直樹 「都市研究におけるアジア」, 『アジア遊学』100号記念号, 2007.
- 吉原直樹 「討議的民主主義とコミュニティ・ガバナンス」(巻頭エッセイ) 『ヘスティアとクリオ』6号, 2007.
- 吉原直樹 「『戦後社会』と町内会」, 『町会』『町と生活』解説・総目次・索引』, 不二出版, 2008.
- 吉原直樹 「新たな制度設計のために」, 日本学術会議『学術の動向』2009年1月号, 2009年.
- 吉原直樹 「バリ像の刷新に向けて」, 勉誠出版『勉誠通信』第5号, 2009年.
- 正村俊之 「シリーズ企業との対話 : 東北放送との対話」, 『東北大学文学部ブックレット 考えるということ』No.2, 2007
- 正村俊之 「グローバリゼーションと境界変容」『書齋の窓』2010年1-2月合併号, pp.48-52, 2010
- 正村俊之 「巻頭言 ジンメル理論と時代の学問的関心」, 『社会学研究』87号, pp.1-3, 2010
- 正村俊之 「巻頭言 政治と宗教をめぐる二つの位相」, 『社会学研究』89号, pp.1-4, 2011
- 長谷川公一 「制度化と自己革新」(巻頭エッセイ) 『環境社会学研究』13号, p.1, 2007.
- 長谷川公一 「公害都市ダーバンで日本の環境問題を語る」, 『社会学評論』58巻3号, pp.357-361, 2007.

長谷川公一 「師を語る 創造と革新」『学術月報』61 巻 3 号, pp.136-138, 2008.

長谷川公一 「JCO 臨界事故」鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房, pp.169, 2009.

Koichi HASEGAWA “Yokohama: The Harbor of Hope,” *Global Dialogue 1-4*: 10-11, 2011.

Koichi HASEGAWA “Voices from Ruins: Rebuilding a Real Sustainable Community,” *Newsletter of Research Committee 24*, No.38: 3-4.

下夷美幸 「養育費確保に関する制度的課題 日本及び諸外国の養育費制度の比較から」, 社団法人家族問題情報センター・養育費相談支援センター, 2010.

(4)辞典項目

吉原直樹 「空間と場所」「新都市社会学」『キーワード地域社会学』(新訂版), ハーベスト社, 近刊.

正村俊之 「予言の自己成就」『社会学事典』丸善, 2010

Koichi HASEGAWA “Dairy Life Pollution”, “High-Speed Transportation Pollution”, “Information and Resource Processing Paradigm”, “Local Resident’s Movements”, “Pollution Zones, Linear and Planar”, “Social Structure of Victims”, “Structural Strains, Successive Transition of” Ritzer, George ed. *Blackwell Encyclopedia of Sociology*, Blackwell, 2007.

長谷川公一 「公共圏」「公共哲学」「市民活動」「世界システム」「文化資本」など 51 項目『広辞苑』第 6 版、岩波書店、2008 (そのほか社会学関連 233 項目を校閲・改稿)。

長谷川公一 「持続可能な社会」「環境ガバナンス」「環境社会学」『社会学事典』丸善, 2010 (編集委員として、「環境と技術の社会学」分野の編集を担当)

下夷美幸 「福祉国家とジェンダー」「家族給付とサービス」仲村優一・一番ヶ瀬康子・右田紀久恵監修『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版, p.332 ~ p.334, p.912 ~ p.915, 2007 年.

1- 4 口頭発表

(1) 国際学会

Naoki YOSHIHARA “ Impact of Mobility and Globalization in Asia, ” Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology & Social Stratification Study, NUS, Singapore, 2009 年 2 月 18 日 .

Naoki YOSHIHARA “ Urban and Migration ” (Chair), The 9th Conference of Asia Pacific Sociological Association, Discovery Kartika Plaza Hotel, 2009 年 6 月 14 日

Naoki YOSHIHARA “ Mobility in Asia ‘ Now ’ and Japanese Society ‘ in Future ’, ” (coordinator) Tohoku University & UI Joint Symposium, JICA, Jakarta, 2009 年 10 月 28 日

Naoki YOSHIHARA ‘ Today’s Trends of Global Mobility in Japan and Indonesia, ’ (coordinator) Tohoku University & Udayana University Joint Symposium, Udayana University, Bali, 2010 年 10 月 29 日

Koichi HASEGAWA “Collaborating Environmental Networks on Global Climate Change Issue in Japan,” The International Network for Social Network Analysis Sunbelt Conference in Corfu, Greece, 2007 年 5 月 4 日.

Koichi HASEGAWA “Civil Society in Japan: Problems and Prospects,” (共著) Special Session: Is Civil Society Possible in East Asia, at the 102nd Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, USA, 2007 年 8 月 13 日.

Koichi HASEGAWA “Local Environmental Governance for ‘Climate Crisis’,” 第 17 回アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)総会テクニカルセッションⅠ「グローバル化と社会環境」, 名古屋大学, 名古屋市, 日本, 2007 年 9 月 29 日.

Koichi HASEGAWA “Locality, Idealism and Profitability as Triggers in Green Energy Movements,” (共著) The 7th World Wind Energy Conference 2008: Energy Autonomy for Local Economies, Kingston, Canada, 2008 年 6 月 4 日.

Koichi HASEGAWA “Local Movement and Local Governance for “Climate Crisis”,” The First ISA Forum of Sociology, Barcelona, Spain, 2008 年 9 月 7 日.

Koichi HASEGAWA “Environmental Sociology in Japan: Overview and the Next Targets”, The International Symposium on East Asian Environmental Sociology, 法政大学, 東京都, 日本, 2008 年 10 月 4 日.

Koichi HASEGAWA “Overview of Japanese Sociology from the Eye of Public Sociology” The Joint Forum on Sociology & Social Stratification Study,

Inequalities & Disparities in Globalized Asia at National University of Singapore, Singapore, 2009 年 2 月 18 日.

Koichi HASEGAWA “Climate Change Politics in Japan: Institutions, interest groups and ideas” (共著) The 7th International Science Conference on the Human Dimensions of Global Environmental Change, IHDP Open Meeting 2009, Bonn, Germany, 2009 年 4 月 27 日.

Koichi HASEGAWA “Postwar Japanese Sociology from the Public Sociology Perspective” The 7th East Asian Sociologist Conference, 成城大学, 東京都, 日本, 2009 年 10 月 9 日.

Koichi HASEGAWA, “Media Coverage on Climate Change in Japan,” The Second International Symposium on Environmental Sociology in East Asia, National Tsing Hua University, Hsinchu, Taiwan, 2009 年 11 月 13 日.

Koichi HASEGAWA “Local Volunteers for Climate Change Actions: From the Surveys on Their Attitudes, Awareness and Actions,” The Second International Symposium on Environmental Sociology in East Asia, National Tsing Hua University, Hsinchu, Taiwan, 2009 年 11 月 15 日.

Koichi HASEGAWA, “Climate Change Action in Local Communities,” Japan Foundation, Center for Global Partnership-Social Science Research Council Policy Forum Core Group Meeting II, 国際文化会館, 東京都, 2010 年 3 月 12 日.

Koichi HASEGAWA “Media Coverage on Climate Change: COMON Japan Case”, The International Symposium on Environmental Sociology and Sustainable Development, Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 10 日.

Koichi HASEGAWA Session 6, Social Sustainability, Environmental Justice and Law, The International Symposium on Environmental Sociology and Sustainable Development, Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 11 日.

Koichi HASEGAWA “Local Movement and Local Governance for “Climate Crisis””, The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 14 日.

Koichi HASEGAWA “Local Volunteers for Climate Change Actions toward Sustainable Learning Community,” The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 15 日.

Koichi HASEGAWA, RC24 Environment and Society, Session 12: Environmental Issues and People's Voice in Asia と Session 13: Sustainability and Ecological

Democracy in East Asia の Organizer と Chair, The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 15 日.

Koichi HASEGAWA “A Comparative Study of Social Movements for a Post-Nuclear Energy Era in Japan and the U.S.,” The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 17 日.

Koichi HASEGAWA “Comparative Analysis of Environmental NGOs in Japan, the US and Germany,” The 8th East Asian Sociologists’ Conference, Korea Maritime University, Pusan, Korea, 2010 年 10 月 30 日.

Koichi HASEGAWA “Facing Nuclear Risks: Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster,” The 9th East Asian Sociologists’ Conference, Nanchang, China, 2011 年 7 月 24 日.

Koichi HASEGAWA “Anti-nuclear Movements in Japan,” East Asian Law and Society Conference, Yonsei University, Seoul, Korea, 2011 年 10 月 1 日.

Koichi HASEGAWA Special Session “*Environmental sociological imagination towards challenge of disasters in Japan*,” におけるパネリスト, 3rd International Symposium on Environmental Sociology in East Asia 2011, Catholic University of Korea, Bucheon, Korea, 2011 年 10 月 23 日.

Koichi HASEGAWA “Comparing Climate Change Policy Networks in East Asia: Examining Commonalities and Differences of Media Coverage and Society,” (共著), 3rd International Symposium on Environmental Sociology in East Asia 2011, Catholic University of Korea, Bucheon, Korea, 2011 年 10 月 23 日.

Shinsaku SHIMIZU “Sociological Neoconservative and Intellectual Networks in New York Intellectual Society,” The 39th World Congress of International Institute of Sociology, Yerevan State University, Armenia, 2009 年 7 月 13 日.

Shinsaku SHIMIZU “Daniel Bell as a Public Intellectual and Sociological Controversies over Neoconservatism,” The 17th World Congress of International Sociological Association(RC08), Gothenburg, Sweden, 2010 年 7 月 13 日.

(2) 国内学会

吉原直樹 「戦間期仙台の余暇空間」, 日本スポーツ社会学会第 16 大会シンポジウム, 金沢大学, 2007 年 3 月 26 日.

吉原直樹 「ローカル・ガヴァナンスと『開かれた都市空間』」, 東北社会学

- 会第 54 回大会シンポジウム, 東北福祉大学, 2007 年 7 月 21 日 .
- 吉原直樹 「安心・安全な地域づくりに向けて」(基調講演), 東北都市学会
大会公開シンポジウム, 東北学院大学, 2007 年 9 月 29 日 .
- 吉原直樹 「ニュータウンの復権のために」(基調講演), 日本感性工学会感
性哲学部会第 9 回研究発表会, 宮城大学, 2008 年 3 月 6 日 .
- 吉原直樹 「公正な社会を求めて グローバル化する世界のなかで」(コメ
ンテーター), 日本学術会議公開シンポジウム(日本社会学会と共催)
日本学術会議講堂, 2009 年 8 月 2 日 .
- 吉原直樹 「地域社会の再生をめざして」(司会), 東北社会学会大会課題報
告, 新潟大学, 2010 年 7 月 24 日
- 正村俊之 日本社会情報学会合同大会 基礎理論部会 の討論者, 名古屋大
学, 2007 年 9 月 9 日
- 正村俊之 東北社会研究会大会 シンポジウム『ルーマン理論の到達点』の
企画・司会, 東北大学, 2007 年 10 月 6 日 .
- 正村俊之 東北社会学大会シンポジウム(『学説研究と数理・計量社会学
理論との対話を考える』)の討論者, 2008 年 7 月 19 日.
- 正村俊之 「リスク論と社会情報学の接点」, 日本社会情報学会合同大会シン
ポジウム, 東京大学, 2008 年 9 月 13 日.
- 正村俊之 日本社会情報学会 理論部会の討論者, 東京大学, 2008 年 9 月 14
日.
- 正村俊之 「ジンメル理論の革新性 デュルケーム、ウェーバーとの関連
において」, 東北社会学研究会・ジンメル研究会合同大会シンポジウム,
東北大学, 2009 年 10 月 24 日 .
- 正村俊之 日本社会学史学会 50 周年記念シンポジウム「社会学の新たなプロ
ブレマティークのために 近代化・共同性・個人化」の討論者, 奈良女
子大学, 2010 年 6 月 27 日.
- 正村俊之 日本社会情報学会合同大会プレカンファレンス 「アジア太平洋
地域の社会情報学」の企画・司会, 長崎県立大学, 2010 年 9 月 3 日.
- 正村俊之 日本社会情報学会合同大会ワークショップ「先端技術を組み込ん
だ社会 3D・モバイル・ライフログ」の企画・司会, 長崎県立大学, 2010
年 9 月 5 日.
- 正村俊之 東北社会学研究会大会シンポジウム「グローバル時代における政
治と宗教」の企画・司会, 東北大学, 2010 年 10 月 16 日.

- 正村俊之 「プログラム科学論から何を受け継ぐか 社会情報学の視点から」,名古屋大学,日本社会学会大会 2010年11月6日.
- 正村俊之 日本社会学会大会シンポジウム「グローバル化する世界 いま何を問うべきか」の企画・討論者,名古屋大学,2010年11月7日.
- 正村俊之 「ポスト産業資本主義の論理 新自由主義は何をもたらしたのか」関西社会学会大会シンポジウム「社会学が捉える現代資本主義—新しい『経済と社会』の可能性—」甲南女子大学,2011年5月29日.
- 正村俊之 「パネル討論『大震災と向き合う』」のパネリスト,人工知能学会大会,アイーナ・いわて県民情報交流センター,2011年6月1日.
- 正村俊之 「社会理論の視点からみた東日本大震災 日本社会の三つの位相に内在するリスク問題」東北社会学会大会(自由報告),宮城学院女子大学,2011年7月18日
- 正村俊之 東北社会学会大会シンポジウム「現代社会における公正と承認」の企画と司会,宮城女子学院大学,2011年7月17日.
- 正村俊之 東北社会学会大会特別部会「社会問題としての東日本大震災 社会学はどのようにアプローチするのか」の企画と司会,宮城女子学院大学,2011年7月17日.
- 正村俊之 「集合知を社会情報学が取り上げることの意義」日本社会情報学会大会ワークショップ「集合知の社会情報学 社会情報学 BOK 構築への挑戦」,静岡大学,2011年9月11日.
- 正村俊之 日本社会情報学会大会・自由報告部会「情報社会論4」の討論者,静岡大学,2011年9月11日.
- 正村俊之 日本社会学会大会・研活テーマセッション「東日本大震災を考える(2) 社会学からの提起」の企画と司会,関西大学,2011年9月18日.
- 正村俊之 日本社会学会大会シンポジウム「ネオリベラリズムとグローバリゼーション その影響への社会学的接近」の企画と司会,関西大学,2011年9月18日.
- 長谷川公一 「市民協働か? 都市成長か? 地域政治の新しい対立軸」単独,第54回東北社会学会大会,東北福祉大学,2007年7月22日.
- 長谷川公一 「地域ガバナンスの動態分析—仙台市議会議員選挙における立候補予定者の事前意向調査とその選挙結果および当選後の活動をめぐって」単独,2007年度日本政治学会研究会,明治学院大学,2007年10月8

日 .

長谷川公一 「地方議会の対立軸 市民協働と都市成長」単独, 第 80 回日本社会学会大会, 関東学院大学, 2007 年 11 月 18 日 .

長谷川公一 「リスク社会化と市民社会」単独, シンポジウム, 東北社会学会研究会, 2008 年度研究会大会シンポジウム「リスク社会と連帯」, 東北大学, 2008 年 5 月 17 日 .

長谷川公一 日本社会学会大会・テーマセッション「吉田理論の提起したものの 批判的検討」の企画・司会, 第 83 回日本社会学会大会, 名古屋大学, 2010 年 11 月 6 日 .

長谷川公一 「被災地から法社会学・社会科学の課題を考える: 福島原発震災が提起するもの」, 日本法社会学学会大会, 緊急企画「災害・救援・復興をどうとらえるか?」東京大学, 2011 年 5 月 7 日 .

長谷川公一 「東日本大震災と復興をめぐる社会的課題」, 東北社会学会大会, 特別部会「社会問題としての東日本大震災 社会学はどのようにアプローチするのか」宮城学院女子大学, 2011 年 7 月 18 日 .

長谷川公一 「東日本大震災をどのような転換点とするのか」, 第 84 回日本社会学会大会, 研活テーマセッション(1) 東日本大震災を考える(1) 社会学への問いかけ, 関西大学, 2011 年 9 月 17 日 .

永井彰 福祉社会学会第 8 回大会シンポジウム, 「小規模・高齢化集落(限界集落)の課題と持続可能性」討論者, 九州大学, 2010 年 5 月 30 日 .

下夷美幸 福祉社会学会 第 5 回大会パネルディスカッション, 「市民社会の構築に向けての NPO 研究の可能性と課題」討論者, 東京学芸大学, 2007 年 6 月 23 日 .

下夷美幸 「福祉国家と家族 アメリカの母子世帯政策を素材として」(基調講演), 日本ジェンダー学会・Association for Gender Issues in Academia 共催コロキウム, 東北大学, 2007 年 12 月 22 日 .

下夷美幸 「現代家族の課題と可能性」, 東北社会学会研究会大会シンポジウム(リスク社会と連帯), 東北大学, 2008 年 5 月 17 日

下夷美幸 比較家族史学会研究大会第 50 回記念大会シンポジウム, 「格差社会と家族」討論者, 東北大学, 2008 年 6 月 22 日 .

下夷美幸 第 4 回社会保障・社会福祉国際学術会議特別セッション(第 20 回福祉社会学会研究会シンポジウム), 「グローバル化と『いのちと暮らし』の再生産保障のゆくえ 国家・家族・個人をめぐる新たなフレームを讀

み解くー」討論者，日本福祉大学，2008年9月13日。

下夷美幸 「家族支援政策の規範論と制度論 介護保険制度を素材として」，
第28回日本家政学会家族関係学セミナー・シンポジウム，大妻女子大学，
2008年10月11日。

下夷美幸 「離婚後の養育費問題にみる日本の家族政策 国際比較の視点から」，
第52回比較家族史学会大会シンポジウム，佛教大学，2010年6月
13日。

下夷美幸 東北社会学会大会シンポジウム，「現代社会における公正と承認」
討論者，宮城女子学院大学，2011年7月17日。

上田耕介 「政治的平等、経済格差、テロリズム ロバート・ダールの2
つのシナリオ」，東北社会学会第54回大会，2007年7月22日。

清水晋作 「ニューヨーク知識社会における知的ネットワークと『公共社会学』」，
第80回日本社会学会大会，関東学院大学金沢八景キャンパス，2007
年11月18日。

清水晋作 「アメリカ新保守主義の社会学的系譜 ベル、バーガーの『信仰
に基づくイニシアティブ』評価」，第48回日本社会学会大会，鹿
児島国際大学，2008年6月28日。

清水晋作 「ニューヨーク知識社会と新保守主義」，第81回日本社会学会大
会，東北大学，2008年11月24日。

木村雅史 「SNS分析の基礎視角——ゴフマンのパースペクティブから」，
日本社会情報学会，2011年9月11日

木村雅史 「CMCの相互行為分析——ゴフマンのパースペクティブから」，
第84回日本社会学会，2011年9月17日

(3) 研究会

吉原直樹 「日本思想史のなかでの移動、越境、オルタナティブ・コミュニティ」(基調講演)，東北大学 GCOE・国際交流基金・東京外国語大学共催
第3回国際会議「日本近現代思想史を書き直す 移動と越境の視座から」，
東北大学，2009年9月25日。

吉原直樹 「創発的なコミュニティ形成の可能性と課題」(基調講演) 横浜
国立大学大学院建築都市スクール市民公開講座「横浜建築都市学」，横浜
情報文化センター，2009年11月20日

正村俊之 「コミュニケーション理論の新展開」，社会情報学基礎論研究会，

2008年4月12日

正村俊之 東北社会学研究会例会の討論者, 2008年

正村俊之 東北社会学研究会例会の司会, 2010年2月27日

正村俊之 「なぜ『情報社会論』の新しいパラダイムなのか」明治大学情報
コミュニケーション学部主催 公開研究会「『情報社会論』の新しいパラ
ダイムなのか」の司会・報告者, 2010年2月27日

正村俊之 「集合知が求められる時代 個人と社会の関係変容」札幌学院
大学主催 第20回社会と情報に関するシンポジウム「集合知と社会情報
学：社会情報学の構築を目指して」2010年2月27日

正村俊之 東北社会学会・研究例会の企画と司会, 東北大学, 2011年6月25
日.

Koichi HASEGAWA “For Understanding the Significance of Growing Diversity:
Collaborating Process between Local Governments and NGO/NPOs;” 日仏シン
ポジウム「排除なき社会をつくることはできるか：日本とフランスの視
点」, 日仏会館, 2009年10月17日.

Koichi HASEGAWA “Public Perceptions, Attitudes, and Political Culture,” Expert
Workshop: Ready or Not? Assessing Recent Changes in Japan’s International
Crisis Management Capabilities, Institute of East Asian Studies, University of
Duisburg-Essen, Duisburg, Germany, 2011年10月29日.

永井彰「ハーバーマスの社会理論 視座と方法」東北社会学会 2011年度第
1回研究例会, 東北大学, 2011年6月25日.

下夷美幸 「母子世帯政策の日本的特徴 アメリカ及びイギリスとの比較と
通じて」, 東北社会学会 2007年度第1回研究例会, 東北大学, 2007年6
月1日.

下夷美幸 「アメリカにおける家族の変容と家族政策 母子世帯の子どもの
扶養をめぐって」, 大原社会問題研究所「福祉国家と家族政策」研究会,
法政大学, 2007年10月29日.

下夷美幸 「離婚後の養育費政策 国家による家族介入の必要性和危険性」,
大原社会問題研究所「福祉国家と家族政策」研究会, 法政大学, 2009年3
月27日.

下夷美幸 「離婚母子世帯の子どもの養育費：問題と政策の検討」, 労働政策
研究・研修機構「シングルマザーの仕事と生活」研究会, JILPT 霞が関事
務所, 2010年3月30日

(4) 海外招待講演

Naoki YOSHIHARA “The Trend of Social Change in Postwar Japan,” Workshop on Postwar Japan, Universitas Indonesia, Depok, 2009年3月30日。

Koichi HASEGAWA “Locality, Idealism, Profitability and ‘Collaborative Environmentalism’ as Triggers in Green Energy Movements” Abe Fellow's Retreat, Cocoa Beach, Florida, USA, 2007年1月13日。

Koichi HASEGAWA “The Development of Japanese Environmental Sociology: Issues and Major Focus of Two Stages” Beijing International Conference of Environmental Sociology, The Renmin University of China, Beijing, China, 2007年7月1日。

Koichi HASEGAWA “The Development of Civil Society in Japan: Under the Age of Globalization and Post-modernity” International Conference on “Globalization and Multi-Modernity”, Jilin University, Changchun, China, 2007年9月1日。

Koichi HASEGAWA “Local Governance and Collaborative Process for “Climate Crisis,” The 6th East Asian Sociologist Conference: Social Transformation in East Asia, Seoul National University, Seoul, Korea, 2008年10月11日。

Koichi HASEGAWA “Globalization and Social Movements from a Civil Society Perspective,” The Joint Symposium on Globalization, Inequality and Social Stratification, University of California Riverside, Riverside, USA, 2009年5月30日。

Koichi HASEGAWA “Green Energy Politics in Japan,” The Forum for Financial Crisis and the East Asian Society, Chinese Sociological Association, Xi’an, China, 2009年7月21日。

Koichi HASEGAWA “Dynamism of Environmental Movements and Policy in Japan,” Public Lecture hosted by Japanese Area Studies, University of Indonesia, 2010年4月16日。

Koichi HASEGAWA “Thinking about the Fukushima Nuclear Disaster: Lessons and the Way to a Post-Nuclear Society,” Pusan National University, Busan, Korea, 2011年6月22日。

Koichi HASEGAWA “Turning to a Post-Nuclear East Asia: Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster,” Korean Sociological Association’s Annual Meeting, Chungnam National University, Daejeon, Korea, 2011年6月24日。

Koichi HASEGAWA “Disaster, Risk Society and the Third Sector: the Japan Experiences,” The Taiwan Association for the Third Sector Research’s Annual Meeting, National Chengchi University, Taipei, Taiwan, 2011 年 9 月 24 日.

2 教員の受賞歴 (2007 ~ 2011 年度)

吉原直樹 第 3 回地域社会学会賞, 2010 年

長谷川公一 第 25 回阿部次郎文化賞, 酒田市教育委員会より受賞, 2008 年.

下夷美幸 平成 21 年度東北大学男女共同参画奨励賞 (沢柳賞) 研究部門受賞, 2009 年.

教員による競争的資金獲得 (2007 ~ 2011 年度)

(1) 科学研究費補助金

(2004-2007 年度) 課題番号 16203029, 「ポスト占領体制」期地域住民組織の比較・歴史社会学的研究, 研究代表者: 吉原直樹, 34,020,000 円 (4 年間総額)

(2005-2007 年度) 課題番号 17730297, 若手研究(B), ニューヨーク知識人とアフーマティブ・アクション, 研究代表者: 清水晋作, 2,400,000 円 (3 年間総額)

(2010-2012 年度) 課題番号 22402035, 基盤 (B), アジアメガシティの多層化するモビリティとコミュニティの動態に関する経験的研究, 研究代表者, 吉原直樹, 14,200,000 円 (3 年間総額)

(2004-2007 年度) 課題番号 16330092, 地域ケア・システムの展開過程にかんする社会学的比較研究, 研究代表者; 永井彰, 10,200,000 円 (4 年間総額)

(2007- 2008 年度) 課題番号 19402033, 基盤研究(B), 持続可能な都市形成に与えるソーシャル・キャピタルの効果の国際比較, 研究代表者: 長谷川公一 14,220,000 円 (2 年間総額)

(2008-2010 年度) 課題番号 20730323, 若手研究(B), 政府・宗教組織・コミュニティの「協働」に基づく社会関係資本の貧困救済効果, 研究代表者: 清水晋作, 4,160,000 円 (3 年間総額).

(2007-2009 年度) 課題番号 19300084, 基盤研究(B) ユビキタス社会の社会情報学基礎論, 研究代表者: 正村俊之, 6,064,000 円 (3 年間総額)

(2007- 2009 年度) 課題番号 19330102, 基盤研究(B), 地域社会における温暖化

防止施策とコラボレーション,研究代表者：長谷川公一 17,090,000 円(3年間総額)

(2010-2012年度)課題番号 22300036, 基盤研究(B)学際的学問分野におけるBOK策定を事例とした知の創成と検証支援システムの研究・開発,研究分担者：正村俊之, 7,020,000 円(4年間総額)

(2010-2013年度)課題番号 22243036, 基盤研究(A) 温暖化政策の政策形成過程と政策ネットワークの国際比較研究,研究代表者：長谷川公一, 24,600,000 円(4年間総額)

(2010-2014年度)課題番号 22243038, 基盤研究(A)日本における社会学教育・研究の国際化をめざす総合的研究,研究分担者：長谷川公一, 32,000,000 円(5年間総額)

(2010-2012年度)課題番号 22530523, 基盤研究(C), 地域ケア・システムの再編成にかんする社会学的比較研究,研究代表者：永井彰, 3,100,000 円(3年間総額)

(2010-2012年度)課題番号 22530525, 基盤研究(C), 離婚母子世帯の子どもの扶養をめぐる福祉国家と家族の関係に関する日英比較研究,研究代表者：下夷美幸,1,500,000 円(3年間総額)

(2) その他

(2003年度-2007年度)21世紀COEプログラム研究拠点形成費補助金 社会階層と不平等研究教育拠点の形成 事業推進担当者：吉原直樹、長谷川公一

(2006-2007年度)社会安全研究財団研究助成,研究代表者：吉原直樹「安全・安心なまちづくりにおける地域コミュニティの役割に関する研究」250万円

(2006-7年度)大原社会問題研究所共同研究助成金「福祉国家と家族政策 ケア供給レジュームの比較研究」研究分担者：下夷美幸

(2007年度)長谷川公一：日本学術振興会受託研究「社会学分野に関する学術動向の調査研究」250万円

(2008年度-)グローバルCOEプログラム教育研究拠点形成費補助金 社会階層と不平等教育研究拠点 事業推進担当者：吉原直樹、長谷川公一(COE研究推進オフィス長)

(2008年度)日本証券奨学財団研究助成「沖縄の離島における地域ケアシス

- テム構築の現状と可能性」研究代表者：永井彰 100 万円
(2009 年度) サントリー文化財団人文科学、社会科学に関する研究助成、研究代表者：吉原直樹「グローバル化に伴うヒトの移動の新たな展開と海外日本人社会の変容に関する研究」100 万円
(2009 年度) JFE21 世紀財団アジア歴史研究助成、研究代表者：吉原直樹「海外日本人コミュニティの変遷と脱ナショナリティのゆくえ」, 150 万円
(2009-10 年度) トヨタ財団アジア隣人プログラム助成、研究代表者：吉原直樹「バリ島に残存するヒンドゥー法典『アウイグ・アウイグ』の収集・整理と保存・継承」, 350 万円

教員による社会貢献 (2007 ~ 2011 年度)

吉原直樹 教授

- ・日本学術会議連携会員 (2004 年 9 月 ~ 2011 年 9 月)
- ・日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会審査員 (2005 年 8 月 ~ 2007 年 7 月)
- ・河北新報・東北大学 100 周年記念事業・東北みらいプロジェクト「不安社会」企画立案・コーディネーター (2008 年 1 月 ~ 2008 年 7 月)
- ・仙台市指定管理者選定委員会委員 (2004 年 9 月 ~ 2006 年 3 月)
- ・仙台市コミュニティビジョン検討委員会委員長 (2006 年 7 月 ~ 2008 年 1 月)
- ・日本新聞協会賞推薦委員 (2000 年度 ~ 2009 年度)
- ・特定非営利法人せんだい・みやぎ NPO センター評議員 (2000 年 ~ 現在)
- ・大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員 (2008 年 2 月 ~ 2009 年 6 月)
- ・講演「看護職のためのライフマネジメント」2007 年度定年退職等看職員のセカンドキャリア研修会、岩手県看護協会、2007 年 12 月 7 日
- ・講演「コミュニティの現状と課題」2007 年度泉青年会議所事業報告会、仙台市松陵市民センター、2007 年 10 月 18 日
- ・講演「安全・安心コミュニティづくり」2008 年度神奈川県安全・安心まちづくりリーダー養成講座、神奈川県、2008 年 8 月 16 日
- ・講義「コミュニティ論」日本放送協会学園高校専攻科スクーリング、東北文化学園大学、2009 年 7 月 5 日

- ・講演「たかが町内会、されど町内会」仙台市青葉区西文化町内会 60周年記念行事、2009年10月3日
- ・講演「いま防災ガバナンスがおもしろい」2009年度ブロック別セミナー、宮城県市町村職員研修所、2009年11月16日

正村俊之 教授

- ・仙台市情報化推進会議委員, 2007～2010年度
- ・関西学院大学出版会評議委員, 2004年度～
- ・天皇・皇后両陛下お招きの御夕餐会, 2008年2月18日
- ・日本学術振興会・科研費第一段選考審査委員(学術創成研究費), 2008年度
- ・科学技術・学術審議会専門委員, 2008年度
- ・日本学術振興会・科研費第一段審査委員(図書館情報学・人文社会情報学), 2010年度
- ・特別推進研究の評価報告書の作成, 2011年
- ・日本学術会議連携会員, (2011年度～)
- ・山元町での記者会見(日本社会情報学会の代表として), 2011年7月30日
- ・講演「グローバリゼーションと東日本大震災」岩手県国際交流協会, 2011年9月25日.

長谷川公一 教授

- ・日本学術会議連携会員(2006-8年度, 2011年1月～)
- ・日本学術振興会専門研究員(2006-8年度)
- ・日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム類型別審査・評価部会委員(2011年度-)
- ・『環境と公害』編集同人(1998年-)
- ・宮城県自然エネルギー・省エネルギー促進審議会委員(2002年度-)
- ・宮城県地球温暖化防止活動推進センターセンター長(2003年度-)
- ・都道府県地球温暖化防止活動推進センター連絡会代表幹事(2006年7月-08年7月)
- ・エコ de スマイルコンテスト in みやぎ選考委員長(2007年5月-2009年3月)

- ・環境省・ストップ温暖化「一村一品」全国大会実行委員長（2007年度
- 2009年度）
- ・環境省・地球温暖化対策に関する地域連携のあり方に関する検討会委員（2008年10月- 2009年6月）
- ・環境省環境教育等推進専門家会議（2011年10月-
- ・一般社団法人地球温暖化防止全国ネット理事長（2010年8月-）
- ・仙台市市民公益活動促進委員会委員（2001年- 07年度）
- ・登米市地域新エネルギービジョン策定委員会委員長（2009年7月-2011年3月）
- ・高木仁三郎市民科学基金選考委員（2007年度-）
- ・高木仁三郎市民科学基金選考委員長（2008年度・09年度・10年度）
- ・社会調査士資格認定機構理事（2007年度- 08年度）
- ・社団法人社会調査協会理事（2009年-）
- ・社団法人社会調査協会倫理委員会委員長（2009年-）
- ・財団法人せんだい男女共同参画財団理事（2001年度-）
- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事（2000年度-）
- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事長（2007年7月-）
- ・特定非営利法人せんだい・みやぎNPOセンター監事（1997年-）
- ・東北大学文学部「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」の企画と運営（2007年-）
- ・講演「フリーライダー（ただのり）問題としての地球温暖化問題」
仙台弁護士会、2009年9月17日。
- ・講演「温暖化会議と市民の力 COP15の現場から」滋賀県地球温暖化防止活動推進員研修会、2010年2月11日。
- ・講演「地域の温暖化対策の最前線 地球温暖化防止活動推進員の意義と課題」広島県地球温暖化防止活動推進員研修、2010年2月24日。
- ・講演「COP15とNPO/市民」MELON・COP15参加報告・国際交渉シンポジウム、2010年3月8日。
- ・講演「地球温暖化問題への社会的視点」大学生生活協同組合東北事業連合通常総会基調講演、2010年5月29日。
- ・講演「エネルギー政策転換について」民主党地方自治体議員フォーラム第10回総会基調講演、2011年7月18日。

- ・講演「脱原子力は可能か」仙台市職員労働組合女性部第45定期総会記念講演、2011年7月18日。

永井彰 准教授

- ・宮城県社会福祉審議会委員,2003年4月～2009年3月.
- ・大崎市地域福祉計画策定会議会長,2007年8月～2008年3月.
- ・講演「地域福祉を考えよう！in NAGANO」ボランティア交流センターながの第1回カフェ・コラボ,2007年5月20日.
- ・講演「大崎市地域福祉計画づくりに向けて」大崎市役所,2007年8月20日.
- ・宮城県保健福祉部指定管理者選定委員会委員,2008年,2010年.
- ・講演,篠ノ井ふれあいフォーラム(篠ノ井女性団体連絡会),2009年7月5日.
- ・「災害弱者の支援と自立について」宮城県市町村職員研修所防災研修,2010年4月27日.

下夷美幸 准教授

- ・仙台市男女共同参画推進審議会副会長(2009年度-現在)
- ・仙台市市民局指定管理者選定委員会委員(2010年度)
- ・厚生労働省・養育費相談支援センター事業に係る企画評価委員会委員(2011年度)
- ・出張講義「現代家族の社会学」,山形県立山形東高等学校「1日総合大学」,山形東高等学校,2008年6月10日.
- ・講演「ジェンダーの視点から『時代』を読む」,第7期有備館講座「『時代』を読む」(東北大学大学院文学研究科市民のための公開セミナー),岩出山地域福祉センター,2008年10月18日.
- ・講演「家族の絆 時代にみる新しいかたち」,男女共同参画フォーラム in しばた2009,槻木生涯学習センター,2009年3月7日.
- ・出張講義「家族を研究するってどういうこと?それって何か役に立つの?」,福島県立磐城高校・大学講義体験,福島県立磐城高校,2009年10月22日.
- ・講演「養育費確保に関する制度的課題」,養育費相談支援センター・平成22年度研修講師等研究会,東京芸術劇場会議室,2010年5月24日.

日.

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

吉原直樹 教授

- ・ 日本学術会議連携会員（2007年8月～現在）
- ・ 日本都市学会理事（2000年～2007年度）
- ・ 地域社会学会理事（2004年5月～2008年4月）
- ・ 地域社会学会会長（2010年5月～現在）
- ・ 日本都市社会学会理事（2007～2009年度）
- ・ 東北社会学会会長（2007年7月～2009年7月）
- ・ 日本社会学会奨励賞推薦委員（2007年度～2009年度）
- ・ 日本社会学会学会賞選考委員（2009年11月～現在）
- ・ 地域社会学会賞選考委員会委員（2007年度～現在）
- ・ コミュニティ政策学会理事（2004年7月～現在）
- ・ 東北都市学会理事（2000年5月～現在）
- ・ 社会学系コンソーシアム評議員（2010年～現在）

正村俊之 教授

- ・ 日本社会情報学会奨励賞選考委員会委員長,2006～2007年度
- ・ 日本社会情報学会理事,2006～2007年度
- ・ 日本社会情報学会英文編集委員,2008～2009年度
- ・ 日本社会学会奨励賞選考委員(図書部), 2009～2010年度
- ・ 日本社会情報学会理事, 2009年度～
- ・ 東北社会学会理事(研究活動委員長), 2009～2010年度
- ・ 東北社会学研究会編集委員, 2009～2010年度
- ・ 日本社会学会奨励賞選考委員(図書部), 2009～2010年度
- ・ 日本社会情報学会・研究委員会委員長, 2010年度～
- ・ 日本社会情報学会大会発表賞選考委員, 2010年度
- ・ 日本社会情報学会(JSIS & JASI)合同大会(JSIS側)実行委員長 2010年度
- ・ 日本社会学会研究活動委員, 2010年度～
- ・ 東北社会学研究会会長, (2010年度～)

長谷川公一 教授

- ・日本社会学会理事（2009年10月）。
- ・日本社会学会国際交流委員長（2009年10月）。
- ・日本社会学会奨励賞選考委員（2007年度～2008年度）
- ・日本社会学会世界社会学会議招致部会事務局長（2007年1月～2008年5月）。
- ・日本社会学会世界社会学会議組織委員会副委員長（2008年7月～2009年11月）。
- ・日本社会学会世界社会学会議組織委員会委員長（2009年11月）。
- ・環境社会学会運営委員（2005年6月～2009年6月）。
- ・環境社会学会会長（2007年6月～2009年6月）。
- ・東北社会学会理事（2003年7月～2007年7月，2011年7月～）。
- ・日本環境会議理事（1998年度）。

永井彰 准教授

- ・福祉社会学会理事（2009～2010年度）
- ・福祉社会学会研究委員（2011～2012年度）
- ・東北社会学研究会庶務委員（2002～2007年度）
- ・東北社会学研究会編集委員（2010～2011年度）
- ・東北社会学会理事（2007～2010年度）

下夷美幸 准教授

- ・家族問題研究会・専門委員（2006年度～2008年度）
- ・福祉社会学会・理事（2007年度～2008年度）
- ・東北社会学研究会・編集委員（2007年度～2008年度）
- ・日本社会学会・編集委員（2009年度～現在）
- ・東北社会学会年報・編集委員（2009年度～2010年度）
- ・福祉社会学会・研究委員（2010年度）
- ・福祉社会学会・理事（2011年度～）
- ・東北社会学会・理事(研究活動委員長)（2011年度～）

上田耕介 助教

- ・東北社会学研究会編集委員（2005年6月-2008年5月）

- ・東北社会学研究会庶務委員（2005年6月-2009年7月）
- ・東北社会学会理事・庶務委員（2005年7月-2007年7月）

清水晋作 助教

- ・東北社会学研究会編集委員(2004年9月-2009年10月)
- ・東北社会学研究会庶務委員(2008年9月-2009年9月)
- ・東北社会学会理事・庶務委員（2009年7月-2011年7月）

木村雅史 助教

- ・東北社会学会編集委員（2009年7月-現在）
- ・東北社会学会理事・庶務委員（2009年7月-現在）
- ・東北社会学研究会庶務委員（2009年10月-現在）

教員の教育活動（2011年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

正村俊之教授

社会的コミュニケーション論特論

社会的コミュニケーション論研究演習 ~

長谷川公一教授

社会変動学特論 ~

社会変動学研究演習 ~

社会学調査実習 ~

永井彰准教授

理論社会学特論

理論社会学研究演習 ~

下夷美幸准教授

社会変動学特論

社会変動学研究演習 ~

2 学部授業担当

正村俊之教授

社会学概論

社会学基礎演習

社会学各論

社会学実習

長谷川公一教授

社会学概論

社会学基礎演習

社会学各論

社会学演習

永井彰准教授

社会学基礎演習

社会学各論

社会学演習

下夷美幸准教授

社会学基礎演習

社会学各論

社会学演習

3 共通科目・全学科目授業担当

永井彰准教授

社会学

下夷美幸准教授

社会学

(2) 他大学への出講(2007～2011年度)

吉原直樹 教授

横浜市立大学(2001年度～現在)

正村俊之 教授

東北学院大学, 2008年度

長谷川公一 教授

岩手県立大学大学院総合政策学研究科(2005～2007年度)

放送大学(2003～2007年度, 2011年度)

神戸大学 (2011 年度)

下夷美幸 准教授

お茶の水女子大学 生活科学部 (2008 年度, 2010 年度)

法政大学 社会学部 (2007-2008 年度)

上田耕介 助教

尚絅学院大学, 2003 年度から 2007 年度

東北薬科大学, 2007 年度

清水晋作 助教

東北文化学園大学 (2004 年度 ~ 2009 年度)

大崎市医師会附属高等看護学校 (2006 年度 ~ 2009 年度)

石巻専修大学 (2006 年度 ~ 現在)

尚絅学院大学 (2007 年度 ~ 2009 年度)

東北薬科大学 (2010 年度)

木村雅史 助教

仙台医療センター助産看護学科 (2008 年度 ~ 現在)

大崎市医師会附属高等看護学校 (2010 年度)

東北文化学園大学 (2011 年度 ~)

東北工業大学 (2011 年度 ~)